

第81回SGRAフォーラム

「1976・あの激動から50年」 ～変わりゆく中国 変わりゆく世界～

主 催：（公財）渥美国際交流財団関口グローバル研究会（SGRA）

共 催：早稲田大学東アジア国際関係研究所、早稲田大学先端社会科学研究所
桜美林大学グローバル・コミュニケーション学群

2026年10月16日（金）15：00～18：00

早稲田大学国際会議場第三会議室
およびオンライン（Zoomウェビナー）

言語：日本語・中国語（同時通訳付き）

参加費：無料

趣 旨

1976年は、中国現代史における最大級の転換点であった。周恩来・朱徳・毛沢東という建国の指導者の相次ぐ死去、唐山大地震という未曾有の災害、そして「四人組」の逮捕と文化大革命の終結。中国はこの年を境に、改革開放へと向かう新たな歴史段階へ踏み出した。

あれから50年。中国は世界経済と国際秩序に大きな影響を及ぼすグローバル・アクターへと変貌し、その歩みは世界の政治・経済・社会・文化の構造変動と密接に結びついてきた。

本フォーラムは、「1976年」という歴史的結節点をあらためて問い直し、その後の半世紀にわたる中国の変化を、中国内部の視点と国際的視座の双方から多角的に検討する。政治・外交、社会・文化、思想・記憶などを横断しながら、「変わりゆく中国」と「変わりゆく世界」を考察し、今後の国際社会が中国と向き合う際に必要とされる歴史的想像力を参加者とともに探りたい。

参加にあたってのお知らせ

■ 参加には事前登録が必要です。

QRコードまたはURLからお申込みください。事前登録URL：<https://x.gd/sP1mL>



事前参加登録

■ 同時通訳をご希望の方へ

会場で同時通訳を利用する場合は、Zoomへの接続が必要となります。

インターネットに接続できる端末とイヤホンをご持参ください。会場のWi-Fiをご利用いただけます。

■ 会場【早稲田大学国際会議場小会議室】

〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1（[キャンパスマップ](#)） 18番の建物）



キャンパスマップ

■ お問い合わせ SGRA 事務局：sgra@aisf.or.jp

■ SGRAとは

関口グローバル研究会（Sekiguchi Global Research Association/SGRA）は、良き地球市民（Global Citizen）の実現に貢献することを目標に2000年に設立されました。渥美国際交流財団の所在地、東京都文京区「関口」に因みます。SGRAは日本の大学院で博士号の取得を目指して研究を行い、渥美奨学生として共に過ごした外国人および日本人の研究者が中心となり、現代の課題に立ち向かうための研究や提言を、フォーラムやレポート等を通じて社会に発信しています。幅広い研究領域を包括した国際的かつ学際的な活動が狙いで、多国籍の研究者が広汎な知恵とネットワークを結集し、多面的なデータを用いて分析・考察を行います。



プログラム

総合司会：李 恩民（桜美林大学）

15：00 開会挨拶 今西 淳子（渥美国際交流財団関口グローバル研究会）

第1部【基調講演】

15：10 【講演1】「50周年回望——1976年が中国にもたらした変化」

牛 大勇（北京大学）

本報告は、1976年を現代中国の政治・社会構造が大きく転換した年として捉え、その歴史的意味を50年後の視点から再検討する。周恩来・朱徳・毛沢東の相次ぐ死去、四月の天安門事件、唐山大地震を経て、十月には「四人組」が逮捕され、文化大革命は終結した。華国鋒政権の成立後、政治の重心は次第に「革命」と階級闘争から経済建設と「四つの近代化」へ移り、失脚した幹部の復帰、対外関係の改善、経済体制の見直し、思想・文化領域の規制緩和が進んだ。本報告では、こうした変化を単なる「文革の終焉」としてではなく、改革開放へとつながる政治的・社会的転換の起点として位置づけ、1976年がその後の中国に何をもたらしたのかを考察する。

15：40 【講演2】「1977年夏 初めての中国」

三好 章（愛知大学名誉教授）

1977年7月末から3週間、初めて中国を旅行した。前年の9月に毛沢東が没し、「四人組」が失脚し、華国鋒がトップに立っていた時期である。「第二次日本学生友好訪中団」として、東京・大阪を中心とした大学生・大学院生18人が北京での1週間の後、長春—吉林—瀋陽—上海と、旧満州国地域を中心にまわった。文革の余韻が残り、政治運動の雰囲気は明確に見て取れた時期であった。「下放青年」「人民公社」「労働模範」「工人新村」など、現在では歴史用語となってしまった事物に、リアルタイムで接することができた。帰国後は受け持っていた生徒たちに見せようと、カラー・スライド写真を撮った。

16：10 【講演3】「台湾人の眼に映った1976年の北京」

王 文隆（南開大学）

1970年代の台湾は、国際社会における地位の低下と、輸出加工型経済の発展という二つの大きな変化のさなかにあり、長年の対立相手である北京の動向を注視し続けていた。1975年に蒋介石の死去を経験した台湾から見ると、1976年の中国大陆もまた、最高指導者の相次ぐ死去、政治闘争、自然災害によって大きく揺れていた。台湾当局はこれを歴史的転換の兆候と捉え、すでに武力による「大陸反攻」を事実上断念していたものの、国内では「中共崩壊論」を強調し、統治の正当性と社会の安定を維持するとともに、軍備の強化を進めた。他方、対外的には反共姿勢を掲げながらも、実際には国際的孤立への対応として多面的かつ現実的な外交を模索し始めた。本報告では、1976年の北京情勢を台湾がいかに認識し、その認識が台湾の内政・外交・経済発展の方向性にどのような影響を与えたのかを検討する。

16：40 質疑応答

16：50 休憩（20分）

17:10 モデレーター：劉傑（早稲田大学）

討論者：中村元哉（東京大学）、孫建軍（北京大学）、王雪萍（東洋大学）、陳璐（早稲田大学）

17:55 閉会挨拶 劉傑（早稲田大学）

18:00 閉会

登壇者紹介

（登壇順・敬称略）



牛大勇 (NIU Dayong)

博士。北京大学歴史学部教授。歴史学部主任、全国歴史学科教学指導委員会副主任などを歴任。京都大学、トリノ大学、パヴィア大学、島根大学、メキシコ大学院大学（El Colegio de México）などで客員教授を務めたほか、ハーバード大学、スタンフォード大学、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス（LSE）、東京大学、早稲田大学などで客員研究員を務めた。主な著書に『解凍への道』『二十世紀中外相互関係史論』『中華民国史』第6巻などがある。全国優秀ベストセラー賞、国家級教学成果一等賞などを受賞。



三好章 (MIYOSHI Akira)

1952年生まれ。一橋大学大学院社会学研究科博士課程単位修得満期退学。博士（社会学）。開成高校・中学教諭を経て1997年愛知大学現代中国学部助教授、2003年同教授、2023年退職、名誉教授。主な著書に『摩擦と合作 新四軍1937-1941』創土社 2003年、『日中戦争史資料-八路軍・新四軍』（共訳）龍溪舎、1991年などがある。



王文隆 (WANG Wenlung)

台湾・新北市出身。国立政治大学歴史学博士。中国国民党文化伝播委員会党史館主任を経て、現在、南開大学歴史学院副教授。主な研究分野は、中国外交、中華民国教育史および蔣介石研究。主な著書に『外交下郷、農業出洋——中華民国によるアフリカ農業技術援助の実施と影響（1960～1974年）』、『並軌——中国国民党の政党外交（1937～1945年）』などがある。このほか、学術誌に50篇以上の論文を発表している。



劉傑 (LIU Jie)

北京外国語大学卒業後、1982年東京大学に入学。1993年東京大学大学院人文科学研究科博士課程修了。博士（文学）学位。早稲田大学社会科学部・社会科学総合学院教授、早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授。専門分野は近代日本政治外交史、近代日中関係史、近代日中関係論、現代中国論。日本と中国の歴史認識問題およびその背景に特に精通している。主な著書：『日中戦争下の外交』（吉川弘文館、1995年）、『中国の強国構想：日清戦争後から現代まで』（筑摩書房、筑摩選書、2013年）など。



中村元哉（NAKAMURA Motoya）

1973年愛知県名古屋生まれ。東京大学大学院総合文化研究科博士課程修了、博士（学術）。南山大学外国語学部准教授、津田塾大学学芸学部教授などを経て、現在、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻教授。公益財団法人東洋文庫客員研究員（現代中国研究班）、国立公文書館アジア歴史資料センター諮問委員会委員などを兼務。専攻は中国近現代史、現代中国・香港・台湾の政治思想史。主な著書に、『中国近現代史——清朝末期から21世紀の強国化まで』中央公論新社、2026年、『日中関係——敵か友か』（共著）東京大学出版会、2026年などがある。



孫建軍（SUN Jianjun）

北京大学長聘副教授、北京大学日本文化研究所副所長。国際基督教大学学術博士。近代中日語彙交流史を専攻。近年は旧長崎唐通事の明治初期における翻訳活動に関する研究に従事。2026年より（12月末まで）国際日本文化研究センター外国人研究員。著書に『近代日本語の起源--幕末明治初期につくられた新漢語』（2015年）、訳書に『日本発見欧州』（ドナルド・キーン著、2018年）など。



王雪萍（WANG Xueping）

東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科教授。専門は戦後日中関係史、メディア史、教育史。博士号（政策・メディア）を取得後、慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所助教、関西学院大学言語教育研究センター常勤講師、東京大学教養学部講師、准教授、東洋大学准教授を経て、2019年から現職。主要研究業績は『改革開放後中国留学政策研究—1980—1984年赴日本国家公派留学生政策始末』（中国・世界知識出版社、2009年）単著、『戦後日中関係と廖承志—中国の知日派と対日政策』（慶應義塾大学出版会、2013年）編著、『変容する中華世界の教育とアイデンティティ』（国際書院、2017年）共編著。



陳璐（CHEN Lu）

早稲田大学社会科学総合学術院准教授。専門は日本近代文学、日中文化交流。東京外国語大学博士（学術）。ハワイ大学客員研究員、中央大学、上智大学の兼任講師を経て現職。早稲田大学グローバルアジア研究拠点、東アジア国際関係研究所、漢学研究所研究員。早稲田大学第10回 WASEDA e-Teaching Award大賞受賞。日本語・英語・中国語による論文を多数発表。



李恩民（LI Enmin）

1996年 南開大学で歴史学博士号、1999年 一橋大学で社会学博士号を取得。桜美林大学リベラルアーツ学群教授、インターナショナル・インスティテュート長などを歴任。2010～2020年公益財団法人渥美国際交流財団理事兼任。2024年4月よりグローバル・コミュニケーション学群教授・学群長。専門は日中関係史、現代中国論。主な著書に『中日民間経済外交』、『転換期の中国・日本と台湾』（大平正芳記念賞受賞）、『「日中平和友好条約」交渉の政治過程』、『中国華北農民の生活誌』などがある。ほかに英・中・日の翻訳書も多数手がけている。